

日本幼児教育振興会主催

「第一回群読コンクール」

サントレ「言葉の教育」がスタートして、六年目となる今年度。日本幼児教育振興会では、群読コンクールを開催いたします。

「群読コンクール開催にあたって」

二〇〇八年から始まったサントレ「言葉の教育」も、皆様のご理解とご協力により、全国へと広がり、多くの子供達が日々サントレを、楽しみながら学んでいます。

子供達が美しい日本語を、心を一つにして語らる群読の成果を披露する場として、この度、導入園を対象とした群読コンクールの開催要項がまとまりました。つきましては、ふるってご参加をお待ちしております。

第一回群読コンクール募集要項

募集期間：平成25年12月1日～平成26年2月10日

対 象：サントレ教育を受けている園児・児童
※園ごとのお申し込みとなります。

発表内容：指定課題作品、自由選択作品 ※要問い合わせ

審 査：当会役員と理事による映像審査
※群読の様相を収録したDVD等をお送りください。

参 加 費：1グループ 2,000円

結果発表：平成26年2月末を予定
※サントレ通信、当会ホームページ上に発表。表 彰：2014年度サントレ春の指導者研修会にて
(会長賞・理事長賞・最優秀賞・優秀賞・奨励賞等)

詳しくは下記までお問い合わせください。

〒160-0002 東京都新宿区坂町26 日本幼児教育振興会 群読コンクール事務局
電話：03-5366-1977 メールアドレス：info@npo-jecc.orgサントレちゃん
日本語探検

「かなづかい」のお話

かなづかいには二種類あって、「伝統的（歴史的）かなづかい」と「現代かなづかい」があるんだ。だけど現代かなづかいは矛盾が多いんだよ。

泉
伝統的かなづかい いづみ
現代かなづかい いずみ

泉の解説

泉とは「水の湧き出づる所」という意味です。現代かなづかいでは「ず」は否定の助動詞で、「水が出ない」の意味となつてしまいます。

編集一後一記

今年の夏は、全国的に厳しい暑さに見舞われました。夏の指導者研修会が行われた7月下旬の東京では、連日猛暑日を記録しました。そんな中、ご参加頂いた先生方は、本当にお疲れ様でした。

夏が過ぎても各地で厳しい残暑が続きましたが、季節は既に秋。過ぎゆく時間の速さは正に「階前の梧葉已に秋聲」です。これはサントレの年長教材でも採用している漢詩「偶成」の結句です。

「季節は移り、時間は瞬く間に過ぎて行く。しかし学問を修めるのは大変だから、僅かな時間も無駄にしてはならない。」と儒学者の朱熹は詠んでいます。

幼少期という貴重な時間を大切にしてください。欲しい、そう思う今日この頃です。

「甦れ日本！ 言霊の幸ふ幼児教育」

日本人としての自信と誇りを取り戻そう ～生者の魂の復興を～

戦後の教育指針を決めた出来事

私は終戦の四年後に当たる、昭和二十四年に小学校に入学しました。したがって、私も皆さんと同じ戦後教育を受けた者の一人です。戦後日本の一番の問題は、国家と国民が対立する存在にされたしまったことです。

この精神的分断国家となつてしまった大きな原因は、終戦の翌年から開かれた東京裁判でした。これは、スポーツでいえば、試合後に新しいルールを作つてそれに違反したから失格だ、と言わんばかりの国際法を無視した復讐劇でした。判決を下す十一名の判事はすべて戦勝国から選ばれる不公正の中、これに反対したのが国際法の専門家、インドのラダビノット・パール判事で、無罪を主張しました。しかし、日本を悪として裁く判決が下されました。

先の大戦に日本には日本の大義がありました。しかし東京裁判を受け入れ、占領期間を経てサンフランシスコ講和条約を締結し、日本は主権回復を果たしたのです。

世界に誇れる教育レベル

江戸時代から日本には藩校や私塾、寺子屋など優れた教育機関が多数あり、識字率も高く、『和魂漢才』『和魂洋才』を柱とした高度な教育が発達していました。しかし日本独自の教育も、その全てが戦後GHQの占領政策によつて一変します。

戦後教育は日本的なものを排除、否定させられることから始まり、『戦前の

日本は悪だった」という、いわゆる自虐史観が今もなお続いているのです。

敗戦国や占領された国は母国語を奪われるのが常ですが、我が国に日本語が残ったことは幸いでした。ただし漢字全廃を前提とした当用漢字が導入され、現代かなづかい、交ぜ書き、代用漢字、新字体等が国語改革と称して次々と導入されました。これは改革とは名ばかりの国語改悪で、文化破壊そのものと言えます。

自信と誇りを取り戻すために

日本人は世界の人々から尊敬の念をもつて見られています。くしくも東日本大震災で見せた民度の高さは、世界を驚愕させただけでなく、私達日本人自身がその事を気付くきっかけとなりました。しかし何故その事を私達日本人は忘れていたのでしょうか。

誇りをテーマに実施された世界の若者へのアンケート結果を見ても、日本の若者の祖国や両親に対する尊敬の念は今や最も低く、これは国そのものが自信を失いかけていると私は感じています。

戦後、日本人は日本の文化・伝統を教わる機会を失い、その結果自信と誇りが持てず、現代日本人の魂（たま）は彷徨っているのだと私は思います。これを正しい教育で甦れたい。私がサントレを通じて『言葉の教育』を推進する理由はここにあるのです。

サントレ夏の指導者研修会

土屋秀宇先生 初日の講演より



幼児のための言葉の教育

サントレ通信 vol.7

科学的幼児教育
サントレ
Scientific Training
2013年9月発行
NPO法人 日本幼児教育振興会

世界を席巻した西洋音楽の秘密に迫る。

サ
ン
ト
レ
特
別
講
演

日本人の私達はなぜ西洋音楽を学ぶのか

講師 三枝成彰氏(作曲家)

毎回、第一線で活躍中の講師を招いての特別講演。今回は、「音楽瞑想」の選曲をご担当頂いた、日本を代表する作曲家、三枝成彰先生です。日本人の私達が、西洋音楽に親しむ理由と、その深い意味についてお教え頂きました。

はじめまして、三枝成彰です。

皆さんは毎朝、瞑想の時間にクラシック音楽を聴いておいでです。それぞれの民族に音楽があるのに、なぜクラシックだけがグローバルスタンダードとして世界に広まり、日本人の我々が学ぶ事になったのか？経済力のせい？民族のせい？そうではありません。一つには、西洋には唯一「楽譜」があったからです。世界中どこでも同じ演奏が可能な「楽譜」を発明した西洋人。

日本語は51文字です。西洋音楽では#(黒鍵)を濁点と考えれば、基本は(白鍵) たった7つの音！ずっと易しい



自らキーボードを弾いて説明される三枝氏



ご自身が作曲された『最後の手紙』公演の模様を紹介



専修大学松戸幼稚園の実施園報告は、平成二十二年入園の第三十二回生の子供達の成長を、三年間に亘り学年ごとに記録した映像を、松本英夫園長先生に紹介して頂きました。

「三年間の歩み」

専修大学松戸幼稚園

園児の成長を追った記録

専修大学松戸幼稚園では、サントレが始まる毎年五月に土屋秀宇先生の講演会を実施し、保護者の皆様になぜ幼児期に言葉の教育が必要なのかを理解していただきます。最初は始どの保護者が、幼稚園で漢字教育？という疑問を持たれますが、土屋先生の講演を聞き、子供の変化を感じると、保護者の反応は自然と変わってきます。

一学期が終わる七月にサントレ参観を実施し、学期末の二月には保護者と一緒にサントレを実践する年間プログラムを組んでいます。専修大学松戸幼稚園では日頃の保育を通じて、

- ① 大きな声であいさつができる
- ② みんなと仲良く遊ぶことができる
- ③ 少しガマンができる

この三つができる子供を育てる事が園の方針でもあり、サントレがその一助になっています。

です。これって凄いことだと思います。

では、どうして西洋だけが楽譜を発明したのでしょうか？実はキリスト教と深い関係があります。ローマ帝国が滅びた後、欧州各地に広まったキリスト教は、クリスマス、神社詣で、お寺参りと忙しい日本人の多神教とは違い、一神教であるがゆえに1962年の第二公会議まで他国の信者にも、ラテン語でミサを同じように歌う事を強いました。そのために『楽譜』がどうしても必要だったのです。

西洋音楽では、楽譜どおりに演奏しなければならぬ。そのかわり、楽譜があるから何人でも演奏できる。今日私達が、ベーターヴェンやモーツァルトを聴いたり弾いたりできるのは、楽譜のお陰です。

●比較試聴 島原の隠れ切支丹が歌い継いだ「オラシヨ」VS 本来のグレゴリア聖歌

一方、日本をはじめアジアの音楽には楽譜はありません。民族音楽はみな、口から口へと「口伝」です。音は瞬で飛び散って覚えきれません。楽譜がないから書き留めることもできない。だから曲数は代々減り、歌詞もメロディも変わってきってしまう。でもどれも正調なんです、アジアでは基本アドリブ(即興)なんです。

●比較試聴 正調「江差追分」の違うバージョンを数種類試聴

万人に心地よい音の科学Ⅱ「和声学」にもとづくクラシック音楽。

いま世界が注目する優れたピアニストは、どの国の人がご存知ですか？中国

入園おめでとう (年少・桃組・宙組)

サントレが始まる五月。三歳の子供達を、担任と副担任の二人の先生がこれから指導します。瞑想の仕方を、お手本を示しながら一所懸命に説明する先生をよそに、足をブラブラ、後ろを向いたりおしゃべりしたり…。

入園して間もない子供達にとっては慣れない事ばかりですから、先生方も大変です。でも二期、三期と進むうちに、子供達の様子に変化が現われ始めます。少しずつですがお話を姿勢正しく聞ける子供や、静かに瞑想できる子供が増えてきました。

進級しました (年中・花組・雪組)

翌年、桃組と宙組の園児達はそれぞれ二組みに分かれて年中クラスの花組、雪組に進級しました。七月のサントレ参観では保護者の前で絵本のなぞり読みや俳句の朗読を披露しました。担任の先生が、「お父さんお母さんも漢字カードを読んでみましょう。」と保護者に呼びかけると、大人達の音読を聞いた子供達は、「僕達の方が上手く読めるよ。」と一年前とは大違い。自信をもって楽しくサントレを学んでいる様子が見てとれます。

この頃になると、授業中に姿勢が崩れたり、おしゃべりする子供も殆どいません。自然と『ガマン』が身に付いているのでしょうか。

人、韓国人です。欧州人でも米国人でもありません。なぜクラシックは、他民族にこもも受け入れられるのでしょうか？

(モーツァルトのソナタを弾く)たとえば、これは気持ちいいけど、(左手右手、別の調で弾く)これって気持ち悪いですよ。つまり西洋人は、同じ倍音の上に乗っていない音は不愉快だ！という科学法則に気づいた人達なんです。

『和声学』と言って、シはド、ファはミに進まなくちゃいけないとか、心地いい音楽のための世界共通ルールが細かく決められています。だから、毎日でも聴いていられる。日本やアジアの民族音楽もたまにはいいけど、毎日聴かないですよ。私達が普段聴く音楽はすべてこれ西洋音楽。ジャズやロック、演歌を含むJポップまで基本は西洋ルールで書かれています。ユーミン、桑田だつて西洋にアフリカテイストを足したものです。

音楽を雰囲気で聴く日本人。音楽にメッセージを求める西洋人。

そして、もう一つ。日本人は、慰められるとか言つて、雰囲気音楽を聴きますが、西洋の人達はメッセージを持つものでないといけない、と考えている。ここが、西洋とその音楽を理解する上で、たいへん重要なポイントです。

(次号に続く)

※倍音とは
基本となる周波数の音に対して、その整数倍の周波数をもつ高音。ハ・ヘ・トや音色を形づくる重要な音の要素。

最後の保育参観 (年長・月組・星組)

七月の保護者参観で漢詩『憫農』を朗読する子供達は、サントレを始めた二年前とは大きく変わっていました。

卒園を目前に控えた二月、最後の保護者参観では、これまでの三年間の成果の披露も兼ねて園児達が和歌、童謡、漢詩を群読。保護者の方から、大きな拍手が送られました。

そして卒園式

第三十二回生・六十余名の園児達は今年の三月九日、無事に卒園式を迎えました。専修大学松戸幼稚園の卒園式は高校と同じ形式で行います。

名前を呼ばれた時、登壇する時、そして修了書を受け取る時の姿は、大変素晴らしいものでした。



瞑想 (年中時代)



漢字カードの授業 (年少時代)



松本園長先生から修了書を授与される32回生



二〇〇九年夏からサントレを導入した
岩国南幼稚園からは、
清水由佳利先生と小山明美先生のお二人が、
実施園報告をして頂きました。

「共に学び、共に遊ぶ」

岩国南幼稚園



清水先生による岩国南幼稚園の紹介

清水先生からは、日頃の園児の生活や
保護者の声を紹介して頂きました。

通園バスの中で響く漢詩

岩国南幼稚園は全11クラス二百名以
上の園児が通う、山口県内でも規模が
比較的大きな幼稚園です。

一年を通して様々な行事があり、子
供達は毎日元気に生活しています。岩
国には海上自衛隊や米軍の岩国基地が
あり、園児のお父様の中には自衛官の
方もいらっしゃいます。

今年で四年目を迎えたサントレです
が、先日年少の子のお母様方から、ご
自宅での様子をうかがいました。

「一学期は教材を持って帰ってきて
も、全く訳が分からない様子でした
が、最近では親子で漢字カード遊びを
しています。」と報告をしてくださる
お母様もいれば、別の子のお母様は
「子供が家で、いっさんいっさん、と
繰り返し言うので、何のことだろうと



サントレ授業の様子

三重県鈴鹿市

学校法人ひかり学園

白子ひかり幼稚園

「自分を信じるこころを育てる」を

園の基本理念としている白子ひかり幼稚園は、
サントレを導入して四年目。

園児は勿論、卒園児も笑顔にあふれています。



静かに瞑想する白子ひかり幼稚園の園児達

思い描いてみよう

～生き生きとした、みんなの未来の笑顔を～

不思議に思っていたところ、参観日に幼
稚園で俳句を習っている事を知り、小林
一茶の事だったのかと感心しました。」
といった楽しいエピソードがたくさん寄
せられています。サントレを始めて二年
目となる年中さんは、来月はどんなお話
だろう？と楽しそうに聞いてきたりす
るようになりました。

岩国南幼稚園の通園バスはとても可愛
くて「あのバスに乗りたい!」という子
供も多いのですが、バスの中で俳句や漢
詩を誦める子供もいて、私達職員の方
が驚かされています。

小山先生からは、岩国市ならではの報
告をして頂きました。

手作りの英語版パンフレット

岩国市には米軍岩国基地がある関係
から、日本人の園児に混じって外国人
の園児もサントレを学んでいます。

ある日、米国人のご夫妻が幼稚園を
訪ねてきたのですが、英語で書かれた
当園のパンフレットを持っていたいまし
た。勿論、私達は英語版のパンフレッ
トを作った記憶はありません。聞いた
ところによると近隣にお住まいの海外
の方々で作られた物を頂いたとの事で
私達教員も大変驚きました。

新学期に日本に來られる方も多く、
教育に熱心な保護者の方は、日本の子
供達と同じ幼稚園に通わせたいと思わ
れているようです。

園長 西尾眞一先生

サントレと出会い、三年が経ちまし
た。三年間しっかりとサントレ教育を
した子供達がいよいよ小学校へ飛び
立っていききました。今でも思い出され
ます。卒園式での素晴らしい姿勢、集
中力。まさに、サントレ教育の効果と
断言できるでしょう。サントレ教育の
力は少しずつですが、子供達に吸収さ
れています。三年経ち、やっと先生達
にもサントレ教育の効果が実感出来る
ようになってきました。その実感が自
信になり、先生達にやる気をもたらし
てくれています。

卒園児の小学校生活

小学校での出来事などを卒園児や保護
者に聞くことがあります。「参観の様子
では、白子ひかり幼稚園出身の子供達の
集中力はやっぱり他の子とは違います
よ。これもサントレの効果ですね!」と
教えてくれました。しかし、その反面、
ひらがな主体の授業に子供達も、保護者
も戸惑っているようです。ある保護者は
「せっかく漢字で自分の名前を覚えたの
に、すべてひらがな!持ち物にもすべ
てひらがな!」「せっかく覚えたのに逆
戻り。」と不安そうでした。

でも、保護者には「三年間で身につけ
たサントレ教育はそう簡単には忘れませ
んよ!しっかりと子供の中に根付いて
います。」と話をしています。

私達教員は、そんな子供のために、
漢字カードにローマ字を書いたり工夫
しながら、共に学べる環境の実現に努
めています。

授業や発表会でも工夫を

これまで合唱や演奏を披露していた
音楽発表会。サントレを始めてから
は、童謡や漢詩などの群読なども行う
ようになりました。繰り返しやソロを
入れる等の工夫しながら、発表会にふ
さわしい内容にアレンジしています。
今年の卒園式では、園児一人ひとりの
卒園の言葉の後に、全員で清少納言の
『枕草子』を披露しました。日本人の
園児と一緒に、外国人の園児も一所懸
命にがんばっている姿は、とても良
かったと思います。

以前は授業や発表会等で、サントレ
教材にある題材を取り上げていたのだ
ですが、最近では教材に無い作品にも取
り組んだり、先生同士で話し合いなが
ら工夫してサントレを進めています。

日本人の園児と外国人の園児が共に
学ぶ大変ユニークな環境の岩国南幼稚
園。その分、先生方のご苦労が垣間見
える内容に、報告を聞かれていた出席
者からは「大変参考になった。」とい
う感想が寄せられました。



漢字カードを使った授業

私達に出来ること

私達は、いま幼稚園で出来ることを
一所懸命やろうと思います。小学校、
中学校、高校では、殺伐とした言葉が
飛び交い悲しい事件も起きています。
言葉の影響力の強さを実感する毎日で
す。しかし、負けずにサントレ教育を
やり続け、そんな悲しい出来事が起き
ない未来を作りたいですね。言葉の力
で日本を変えるサントレ教育が少しず
つでも広がることを願っています。

新潟県新潟市

社会福祉法人 みつばち福祉会

みつばち保育園

みつばち第二保育園

新潟市のみつばち保育園、みつばち第二保育園はサントレを導入して三年目。先生方の熱意と努力により、保護者の皆様からも高い評価を頂いています。



先生と一緒に俳句の音読

子供の成長を実感できる言葉の教育

みつばち保育園

園長 伊藤清嗣先生

当法人の二園の保育園がサントレを導入してから、三年目になります。

導入のきっかけは、平成二十年に保育所保育指針が改正され、改正の一つとして『養護と教育の一体的な実施』という保育所保育の特性が明確化されたことです。改正に伴い当園では、子供にとって、この時期に何が一番必要かということを考えてきました。これまでも外国の方とのふれあいや、音楽指導などを取り入れ、養護だけでなく、教育的内容を含め保育をして参りましたが、この『サントレ』に出会い、正に一体的な実施ができると確信し、導入を決めました。

半年間のモニター期間を設け、職員研修や模擬授業を実施し、年度末には公開保育を開き、言葉の教育『サントレ』を保護者の方により良く理解していただくために、土屋先生や佐藤先生から、講演をして頂きました。

みつばち第二保育園
園長 伊藤久子先生

サントレの実施により、日を追うごとに効果が表れ、子供達にも落ち着きが出てきました。言葉というより奇声を発していた子供達も、語彙が増えるとともに奇声がなくなり、保育中や給食中に立ち上がったたり、自分勝手に動

き回る行動もなくなってきました。『姿勢を正す』サントレの大事な基本が、子供達に身につけてきたのだと思います。サントレを通し、姿勢が良くなるにつれて、ヤル気のない子供や、根気のない子供達に変化が表れてきた事に、私ども職員一同驚いております。

保護者の皆様から

●言葉の力、言葉の大切さを実感しました。子供の成長を見ることができ、とても嬉しかったです。家では子供が先生役になって、サントレをやっています。言葉に興味を持つとともに、姿勢を正している姿に感心しています。

●最初はどんなものかサントレ教育に半信半疑でしたが、一年続けてきた子供達の様子、姿勢を良くし、心を落ち着けて座っている姿を見て驚き、嬉しく思いました。

●家では自分が興味のある本や、子供事典なども集中して読むようになり、本を手にする時間が増えています。土屋先生の講演を聞いて、改めて家庭での親の言葉使いを見直さなければ！と思いました。

愛知県名古屋

学校法人 松永学園

愛英名東幼稚園

昨年度、サントレを三年間学んだ子供達を初めて小学校へと送り出した、愛英名東幼稚園。先生方の指導力は、保護者の皆様からも高い評価と信頼を得ています。



群読 雨ニモマケズ

知・徳・体のバランスがとれた教育を

学園長 松永充政先生

本園は昭和五十五年、名古屋市名東区に、松永学園五つ目の幼稚園として開園しました。開園当初より、光あふれる園舎、広々としたグラウンドには、子供達の明るく元気な声が響きわたっています。そんな園生活を通じて明るく豊かな心を育むとともに、先進的教育・指導も積極的に実践し、質の高い人間形成を行っています。

本園がサントレを導入して三年が経ちました。そしてこの春、年少から三年間サントレを学んだ初めての子供達を、自信をもって小学校へ送り出すことが出来ました。

卒園した子供達

卒園した子供達の自慢は、毎年行われる二月の学習発表会で行った群読。昨年の年長組が群読「学問のすゝめ」を行い、その意気揚々とした姿を、憧れのまなざしで見ていた子供達は、「次は自分達が行うんだ!」と、とても楽しみにしていました。そして迎えた当日。やる気満々の子供達は、大きな舞台に臆することなく、堂々と宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を披露することが出来ました。保護者の方々からは、「素晴らしい群読だった。」「涙が出ました。」などのお褒めの言葉も頂き、子供達の力の素晴らしさを、改めて感ずることが出来ました。



姿勢を正して漢詩を音読する園児達

そして卒園式。来賓でいらした小学校の先生に「すぐにでも入学出来ますね。」と褒めて頂き、改めて三年間のサントレの成果を感じることが出来ました。まだまだ、模索しながら進めているサントレですが、『言葉は心を育くむ母乳』。栄養をたっぷり含んだ美しい言葉、優しい言葉をふんだんに与えていく気持ちを忘れずに、取り組んでいきたいと思っています。

卒園児保護者のアンケートより

●先生の話を静かに座って聞くことが普通だと思っていたので、出来ない小学生がいるのが不思議、という感じです。

●学校でも姿勢よく授業を受けています。サントレのお陰だと思っています。

●サントレは、遊びながら言葉を学べるトレーニングであり、美しい日本語をたくさん覚えて、心豊かな子供になると思います。